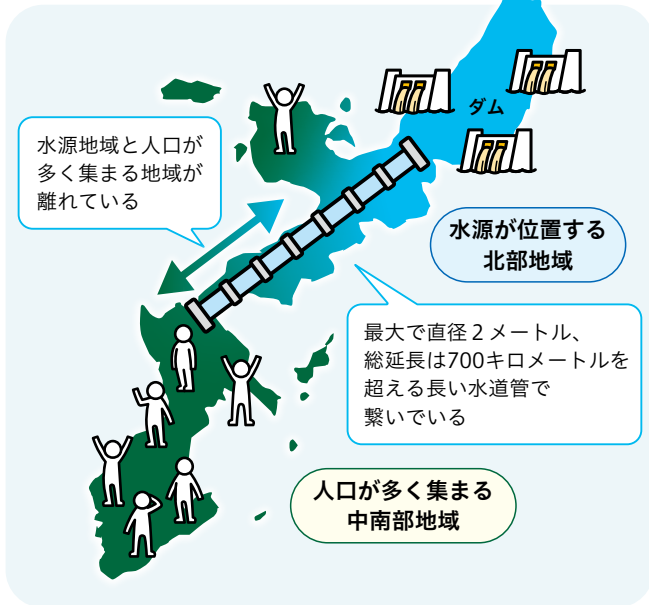




沖縄県企業局
ホームページ

■ 北部の水源から本島全域へ



沖縄本島における水の供給イメージ

蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水道水。本島内の多くのご家庭や学校でお使いの水道水はどこから来ているかご存じでしょうか。

沖縄本島は南北に細長く、水源地域と人口が多く集まる地域が離れている特徴があります。そのため、水道水は主に北部のダムや河川で集めた水を、本島全域へつながる長い水道管で送り届けています。その大きさは最大で直径2メートル、総延長は700キロメートルを超え、浄水場や増圧ポンプ場など多くの施設を経由しながら、中南部地域へ届けています。

県企業局では、ダムの貯水率や天候の変化などに応じて水を安定的・効率的に供給するため、365日24時間体制で浄水場の運転や水の運用を行っています。また、安全な水を供給するための水質検査・管理体制を構築しており、常時の監視により異常を検知した際には迅速な対応が可能となっています。

■ 老朽化が進む水道施設

本土復帰前後の急速な整備から半世紀が経ち、多くの水道管や設備が更新期を迎えています。地中に埋設された管は、年月とともに老朽化が進み、漏水の原因となります。昨年11月には、大宜味村地内において米国規格の導水管が破損し、南部地域で断水が生じてしまいました。また、古い管は耐震性が低いなどの課題があり、大きな地震が発生した場合には断水につながるおそれもあります。

そのため、老朽管を耐震性の高い新たな管へ更新するとともに、浄水場・ポンプ場など重要施設の更新・耐震化を計画的に進めることが重要です。

■ 更新・耐震化は時間と費用をかけた大規模プロジェクト

水道施設の更新・耐震化は、長距離にわたって大口径の管を地中深くに設置する工事や、運転を止められない浄水場の改修など、高い技術力が求められる大規模なプロジェクトです。交通や生活への影響にも配慮しながら段階的に進めるため、どうしても多くの時間と莫大な費用がかかります。

現在整備中の直径1.3メートルの管の場合、10キロメートルの延長を整備するため、10年の歳月と約200億円の費用がかかっています。

それでも「水を届け続ける」ためには、将来を見据えた着実な投資が不可欠です。

北部の水源から中南部の家庭まで続く長い道のりをはじめ、将来にわたる安定的な水の供給の取組について、ぜひ関心をお寄せください。

6月1日から7日は
「水道週間」です



イベントもあるよ！
ホームページを
みてね♪

沖縄県企業局キャラクター
スイドウマン(左)とミジー(右)



道路を掘り起こすことなく
水道管を設置するための掘進機械



地下での水道管の掘進作業状況
(ジャッキによる推進工事)



終点に到達した掘進機械
(水道管の設置完了)

問い合わせ 県企業局 経営計画課 電話：098-894-2133

